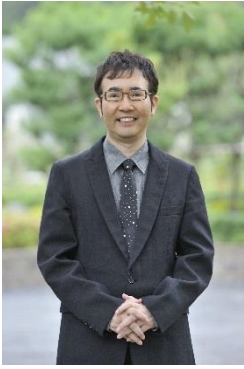


## Art Award IN THE CUBE 2020 審査員 略歴

平成 30 年 9 月 11 日現在

	<p>えんどう としかつ 遠藤 利克</p> <p>彫刻家</p> <p>1950 年・岐阜県生まれ（67 歳）。名古屋造形短期大学彫刻科卒業。飛騨高山の宮大工の家系に生まれる。70 年頃より、近・現代彫刻の立体作品を制作。原始的な物質が醸し出す虚構性や幻想性に目を向け、炭化した木や水や土を使った抽象的な作品を発表。1990 年第 44 回ヴェネチア・ビエンナーレ、1994 年第 22 回サンパウロ・ビエンナーレに出展するなど国際的にも活躍。2009 年第 5 回円空賞、2018 年第 59 回毎日芸術賞を受賞。</p>
	<p>かわぐち たかお 川口 隆夫</p> <p>ダンサー・パフォーマー</p> <p>1962 年・佐賀県生まれ（55 歳）。上智大学イスパニア語学科卒。1990 年よりダンスカンパニー「ATA DANCE」主宰、96 年より「ダムタイプ」に参加。2000 年以降は演劇・ダンス・映像・美術をまたぐパフォーマンス作品群を発表。『a perfect life』シリーズ（08 年～）ではその Vol. 06「沖縄から東京へ」で第 5 回恵比寿映像祭（13 年）に参加した。近年は舞踏家・大野一雄の踊りを「完コピ」する『大野一雄について』（初演 13 年）でニューヨーク・ベッシー賞にノミネートされ、現在も世界各地をツアーし続けている。</p>
	<p>しのはら ちとあき 篠原 資明</p> <p>詩人・美術評論家／高松市美術館館長</p> <p>1950 年・香川県生まれ（68 歳）。京都大学名誉教授。京都大学大学院では、哲学科の美学美術史学を専攻。東京藝術大学、大阪芸術大学等で教鞭をとっていた 80 年代から現代美術の批評を行うなど、現代アートに関与し続ける。哲学者としては、あいだ哲学を提唱し、「まぶさび」という独自の美的理念も提案する。評論集を多数出版するほか、超絶短詩集『物騒ぎ』を出版するなど詩人としても活躍している。</p>
	<p>たかみね ただす 高嶺 格</p> <p>美術家／秋田公立美術大学教授</p> <p>1968 年・鹿児島県生まれ（50 歳）。京都市立芸術大学／岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー卒業。90 年代にアーティスト集団「ダムタイプ」に参加。作品はテクノロジーを駆使したものから工芸的な手法まで多岐にわたり、映像、インスタレーション、写真、立体のほか、自らが演出したパフォーマンスを定期的に発表している。著書に『在日の恋人』。2013 年ドイツ学術交流アカデミー（DAAD）に招聘され 1 年間ベルリンに滞在。</p>



ふくおか しんいち  
福岡 伸一

生物学者／青山学院大学教授

1959年・東京都生まれ（58歳）。京都大学卒。米国ハーバード大学医学部博士研究員、京都大学助教授などを経て青山学院大学教授・米国ロックフェラー大学客員教授。サントリー学芸賞を受賞した『生物と無生物のあいだ』、『動的平衡』など、“生命とは何か”を動的平衡論から問い直した著作を数多く発表。フェルメールの全作品を巡った旅の紀行『フェルメール 光の王国』を上梓。「フェルメール・センター銀座」の監修および、館長もつとめた。



ふじもり てるのぶ  
藤森 照信

建築家／東京都江戸東京博物館館長

1946年・長野県生まれ（71歳）。東京大学名誉教授。東京都江戸東京博物館館長。東京大学大学院修了。専門は近代建築、都市計画史。全国各地で近代建築の調査、研究を行うなど研究者として活動したのち、1991年建築家として活動を始め、自然素材や植物と取り入れた建築を多く発表している。岐阜県多治見市モザイクタイルミュージアム設計・デザイン。1997年第29回日本芸術大賞、2001年日本建築学会賞、2009年第5回円空賞を受賞。



むらせ きょうこ  
村瀬 恭子

画家／多摩美術大学教授

1963年・岐阜県生まれ（55歳）。愛知県立芸術大学院修了。90年から96年まで、国立デュッセルドルフ芸術アカデミー（ドイツ）に在籍。93年には、コンラッド・クラベックよりマイスター・シューラー取得。近年まで、ドイツ・デュッセルドルフを拠点に制作を続けてきた。少女像を中心に捉えた具象絵画を手掛け、丁寧に置かれた色が幾層にも重なり、瑞々しい空気を放つ。1996年以降、国内外の美術館にて開催されたグループ展にも多数参加。